

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害や台風などの災害に遭われた方には誠に恐縮だが、当地は猛暑だけで他に災害がなかったため、連日気温が33度以上で、冷たい物、飲料を始め、非常に売上が増えている。お祭りなどの影響もあり、好調である。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・中旬以降、暑さもあつてか、上うな重の注文が多く、それなりに売上も伸びている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・料金の変更や、コンサートイベントなどの集客施策実施により、3か月前と比べて今月は来客数が増加している。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・猛暑で水物関係の商材の動きが良い。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・5月以降、近隣の女子短大生が、以前より来店することが多くなっている。目的の1つが、自分で作るソフトクリームで、4～5人で来店して、スマートフォンで動画を撮っていくため、来客数は増えている。6月の売上は前年比92%、来客数101%であった。今月は25日までで売上81%、来客数109%である。6～7月はイベントがなく、前年割れとなっているが来月は前年並みにはなる予定である。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月はとにかく猛暑で、冷たい商材が主に動き、2～3か月前に比べれば、若干良いのではないかと。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・フリー客の動きが良く、今月は来客数、客単価共に良い。猛暑で生ビールが飲みたくなっている感じである。被害も出ているほどの猛暑なので、喜んでみられないが、居酒屋的には有り難い。
		都市型ホテル（支配人）	それ以外	・猛暑が続き、平成30年7月豪雨災害等のニュースは流れているものの、東京オリンピックの2年前イベントが行われたりと明るい話題も聞こえてきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・数か月前よりは良くなっているが、例年から考えると良いとは言えない。ここ数か月が悪過ぎで、その状況からは回復傾向だが、いまだ低調な推移である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・当社で営業している屋上ピヤガーデンの来店客が、前年よりも200名増えている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は新盆などの法事の依頼が多い。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・当店は学校相手の店で、昔は、夏休みに入ると、登山、キャンプで結構スポーツ用品を買ってもらったが、今はホームセンターや大型店が出来て、ほとんど普通の小売店は必要なくなってきたという感じである。昔と全然違う。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・記録的な酷暑で、昼間の通行客が激変している。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑で、今までになくエアコンに動きがある。ただし、必要に応じた購入なので、販売量、売上は確かに増えているものの、この状況が景気を左右するかは疑問である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客の様子は今までと変わっていない。買い方は慎重というか、余計な物は買わない状況である。
		百貨店（売場担当）	それ以外	・今月苦戦の要因は、クリアランスセールの前倒しである。当社は前年は7月中旬スタートだったが、今年は6月末スタートと2週間前倒ししている。その結果、6月の売上は増え、今月は苦戦が強いられている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・猛暑続きで、飲料、冷やし中華、アイスなどの涼味の販売が好調である。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・夏物商材のピークに入っても、来客数の前年割れが続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・先進技術搭載車種を中心に、新車販売は堅調である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検入庫は横ばいだが、この暑さの要因もあり、一般整備は目標を上回っている。車両販売は、商用車のトラック、バン等が伸び、乗用車は落ち込んでいて、トータルは横ばいである。
	自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・製造業従事者にボーナスが多めに出了らうようで、今まで我慢していた客の購買意欲が高まっている。	

	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・変わらないというか、悪くなっているほどでもない。天候がかなり影響している。
	旅行代理店（副支店長）	販売量の動き	・国内、海外旅行共に順調に推移してきたが、今月に入り客足が鈍くなっている。地元の選挙等の影響もあり、旅行者の動きが鈍い。また、天候不順などの影響も出てきているようである。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・新年度に入って4～7月までの融資の相談件数は低調で終わっている。今月に入り、大手チェーンの支店開設の融資相談が少し増えている。また、今月は記録的な猛暑も15日目となり、高齢者はほとんど外出しない。客の来店頻度が全体的に鈍っている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月に入り、別荘地は本格的なシーズンに入っているが、入込は例年並みである。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・酷暑が続くためなのか、例年なら売れる物が売れず、逆に、ふだんは余り売れない和装の履物に関心が集まっているようである。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨明けも早く、毎日が夏日で追い風となっているが、この好影響でやっと前年並みである。来客数と客1人1人の買上単価の上昇が必要だが、生活必需品はそろって原価高騰による値上げで、やや買い控え、仕方なく購入している状況であるため、購買拡大にはつながらない。
	観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害による自粛、交通機関の運休によるキャンセルが響いている。また、販売品の仕入れが間に合わないなど、間接的な影響も受けている。
	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今春は早く暖かくなったので、行楽の動きは比較的活発だった。夏に入って平成30年7月豪雨の災害などがあり、予約は例年並みの推移であるため、やや悪くなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・日によってだが、金曜、土曜以外は夜の動きが非常に悪い。
	通信会社（経営者）	お客様の様子	・新規加入は相変わらず低調で、問合せも少ない。
	ゴルフ場（経営者）	それ以外	・異常な暑さが続き、高齢客の来場が多い平日に、キャンセルが多発している。また、奇妙なルートを取った台風などでもキャンセルが多くあり、まさに、お天気商売である。
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・細かい改修、増築などが多く、手間が掛かるが利益にはつながらない。
	× 衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月末までは注文服の受注はあったが、今月は洋服の修理くらいしかない。
	× スナック（経営者）	お客様の様子	・客の動きも、当店だけでは全然分からないが、競争相手の様子などいろいろある。とにかく景気が悪い。
企業動向関連	-	-	-
(甲信越)	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の営業マンと話すなかでも、同様にやや良くなっていることがうかがえる。
	食料品製造業（総務担当）	それ以外	・販売金額のパイ自体は、業界の努力で何とか維持している。しかし、大手メーカー微増のあおりを受けて、中堅以下は前年同水準も維持できていない。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・薄利ながら受注量がやや増加している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・安定した状態が続いており、周辺企業も順調な生産をしている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築工事はやや頭打ちの傾向で、小口、リフォーム工事が増加傾向にあるものの、公共工事は少なくなっている。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・非製造業は個人消費関連産業で弱さがみられるものの、製造業は前期に引き続き、国内、海外共に高水準の受注を維持している。
	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦懸念から、機械関係の需要が減少してくる可能性がある。また、世界的にも景気一服感が出てきていると感じる。
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当地では雨が降った日は数日だけで、高温が続いており、農作物の収穫に影響が出ている。飲食店や量販店では夏商材が前年以上に好調だと話しているが、今月のチラシ出稿量は前年比92.7%と落ち込んでいる。
	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・前月から引き続き、35度以上の猛暑日が13日連続を記録し、来場者数が減少したため、前年実績を下回る結果となっている。

		その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ボーナスセールを行ったが、売上は前年夏より5%減である。暑さの影響もあり、身に付ける物への関心が低い。国内卸、小売は相変わらず不調である。
	x	食料品製造業 （製造担当）	それ以外	・天候不順で農作物の収穫ができず、価格が高騰してきている。また、フィルムなどの包装資材も値上げしている。
雇用 関連		-	-	-
(甲信越)		人材派遣会社 （営業担当）	求職者数の動き	・ボーナスが出ない、あるいは減っている企業は多いが、実際に職安などの求人案内の内容が正しいか不安なようで就労条件等の相談が増えている。
		求人情報誌製作 会社（経営者）	周辺企業の様子	・飲食店、コンビニなどでは、募集をしてもほとんど問合せがない店もあり、外国から留学で来ている日本語学校の生徒をアルバイトとして雇用し、最低限の人員を何とか確保している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設業は好調な民間受注を背景に活発な求人が続き、前年比15%の増加である。小売業は前年にあった新規出店に伴う大口求人がないため、25%の減少となっており、業種によって状況が変化している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所の有効求人倍率が、4か月ぶりに上昇している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が低下し、新規求人数も減少している。
	x	-	-	-